

滝の上に出ると、水量が少なくなる感じが続いた。

出合から10分過ぎた所で右俣出合。右俣は5m 2段の滝をかけて合流している。まずはここからと出合の滝に取り付く。下部はナメ状で、楽に登れ、上段は左岸を直登する。そのあとすぐに5m滝が出てくる。ここはホールドが少なかったが、右岸を直登する。この滝を越えた所で、水量がぐっと少なくなった。もう瀾流の装いである。まもなく沢筋は落葉の中に埋まる。7:20遡行終了、そのまま引き返して左・中俣の遡行を再開する。

左・中俣もすぐ4m滝をかける。そしてそれを越えた所で水量が減少。流れの幅も細くなる。そしてすぐ中俣出合。中俣は全体として平凡であったが、小滝とナメがあり、

その最後をかざるようにして、7mのナメ滝があった。ここは適当にホールド、スタンスのある滝で、楽に登れ、それを越えた所が瀾頭であった。

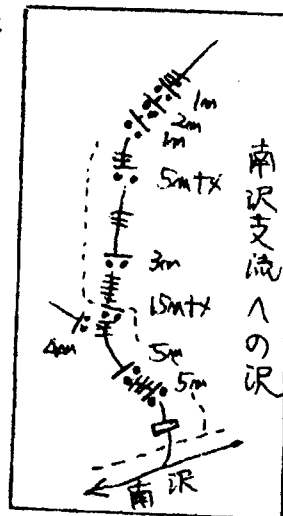
最後の左俣は、最も平凡。でだしにナメと4m滝があるだけで、あとは細いミゾ状の流れが瀾頭まで続いているだけであった。8:10遡行終了。(

[タイム] ハの沢出合(7:00)→右俣出合(7:10)→右俣終了(7:20)→中俣出合(7:30)→中俣終了(7:50)→左俣終了(8:10)

南沢支流への沢

1988年7月23日

12:55への沢(仮称)の遡行開始。林道南沢線の奥にある砂防ダムを越えると、5m滝が二つ続いた。いずれも直登。やがてくの字に曲がった15mナメ滝。直登する。下段は傾斜もゆるく、フリクションで登る。上段はホー



ルド豊富である。

15m滝を越えると、あとは平凡となった。沢が右に曲がると、水量も少なくなる。12:45遡行終了。あとは右岸の古い踏跡を使って戻る。踏跡は15m滝の先で左岸に渡り、小尾根上を下って、への沢出合近くで林道南沢線に合流していた。

(記)

[タイム] への沢出合(12:25)→への沢終了(12:45)→山本不動尊(13:30)

南沢支流トの沢左俣、中俣、右俣

1988年7月23日

ヌの沢(仮称)終了後、尾根を越えてトの沢(仮称)へ。10:20下降開始。急な斜面を下って左俣源頭へ出る。細い流れについて下ると、平凡なままで中俣との合流点に出してしまった。

中俣は、源頭近くだということ考えると、まああの沢であった。まずは4mの滝。直登するが、ホールドは細かった。そしてその先沢の行く手を阻むようにして岩場が出現。その右端が5mの滝となっている。直登するが、ここもホールドが細かった。5m滝の奥でまもなく水流が消えたので、遡行終了とする。

引き返して少し下ると、右俣出合。右俣は4mの滝があっただけで、あとは平凡であった。

再び下降を続ける。小滝が続くが、下るのにちょっとホネのあるのが出てくる。もっとも掛けば簡単である。やがて5mの滝。左岸をクライミングダウンするが、ちょっときつかった。この後も小滝が出てくる。でもホールドが豊富で、クライミングダウンしたり、フリクションをきかせて下る。

前方に南沢の本流が見えてくる。もうこれで終わりかと思ったら、沢は大きく左に曲がり、カレ沢となる。本流との合流点まで意外と距離があった。

